

7

防災拠点としての空港の役割とは？

静岡新聞 平成24年(2012年)10月3日掲載記事



静岡空港、県庁を選定

広域防災の基幹拠点

防災拠点のネットワーク形成に向けた国や中部圏5県の自治体、有識者による検討会は2日、名古屋市内で会合を開き、大規模災害時に国の現地対策本部や支援物資の中継基地となる「基幹的広域防災拠点」として、静岡県庁、静岡空港など5カ所を選定した。配置計画を「中部圏地震防災基本戦略」に盛り込み、国の防災基本計画への位置付けを目指す。

基幹的拠点のうち「司令塔機能を持つ拠点」には、東海地震単独の場合の静岡県庁と、南海トラフ巨大地震の場合の名古屋市三の丸地区の2カ所を決めた。「高次支援機能を持つ拠点」は静岡空港と愛知県営名古屋空港、名古屋港の3カ所。静岡県は静岡空港西側が適地として、既に国などに働き掛けていた。

基幹的拠点として国が実際に施設整備をするには、各拠点を国の防災基本計画に位置付ける必要がある。自治体や防災関係機関などでつくる「中部圏戦略会議」は今後、内閣府などと調整し、2012年度中に整備方針などの計画を定めた。

基幹的拠点は、首都圏では東京都江東区と川崎市に、関西では堺市に整備されている。

会合では、高次支援機能を持つ拠点が①海外からの物資・人員の受け入れ②広域支援部隊のベースキャンプ③支援物資の中継・分配機能を持つ拠点を担うことを確認した。その下部に位置付ける「広域防災拠点」を静岡県東、中、西部の各2カ所を含む5県計22カ所に設け、ネットワーク化することも決めた。

基幹的拠点として国が実際に施設整備をするには、各拠点を国の防災基本計画に位置付ける必要がある。自治体や防災関係機関などでつくる「中部圏戦略会議」は今後、



実際に災害が発生した時に空港がどんな役割をはたしたのか事例を調べてみよう！

用語解説



基幹的広域防災拠点(高次支援機能)

予想される南海トラフ巨大地震など、大規模かつ広域的な災害が発生した際、①他の都道府県や海外からの緊急支援物資・支援人員の受け入れ機能、②広域支援部隊の一時集結・ベースキャンプ機能、③緊急支援物資の中継・分配機能、④災害医療支援機能、⑤災害ボランティア活動支援機能を有する拠点のことをいう。

SCU(ステージング・ケア・ユニット)

広域医療搬送の中継拠点(被災地内)に設けられる、救急医療の専門チームによる患者の病態評価と安定化処置を行う仮設救護所のこと。ここで広域搬送に耐えられるかトリアージ(治療や搬送に優先順位をつけて負傷者を分類すること)が行われます。